

2019J2 ■順位表■ 第12節

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績 (岐阜から見て)

1	水戸	26p	+10	14	4	H●
2	山形	24p	+7	14	7	HO
3	大宮	24p	+6	15	9	
4	甲府	20p	+7	17	10	A●
5	金沢	19p	+9	18	9	
6	京都	19p	+3	12	9	H△
7	柏	19p	+3	10	7	
8	新潟	17p	+4	15	11	
9	琉球	17p	+3	18	15	HO
10	徳島	16p	0	15	15	A●
11	岡山	16p	0	14	14	HO
12	長崎	15p	0	12	12	H●
13	東京V	14p	0	13	13	
14	横浜FC	14p	-2	12	14	A●
15	千葉	14p	-6	10	16	
16	町田	14p	-8	8	16	
17	愛媛	12p	-3	10	13	A●
18	福岡	12p	-5	9	14	
19	岐阜	12p	-8	8	16	---
20	山口	11p	-6	16	22	
21	鹿児島	11p	-7	8	15	H△
22	栃木	10p	-7	10	17	A△

次回HomeGame

第15節 vs.町田ゼルビア

5/26 (日) 19:00

@岐阜メモリアルセンター

長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前 (三菱UFJ銀行隣り)

年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

Living in Woods

本庄工業株式会社

http://www.honjo-woodream.com/

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休:月曜日

today's guest : ツエーゲン金沢

2018 J2 14勝13分15敗 勝ち点55:13位

直近の対決と結果

2018/09/30
J2 - 35節@石川西部

金沢 2-0 岐阜

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜	ツエーゲン金沢
2019/05/05 J2 - 12節@長良川 岐阜 2-1 琉球	2019/05/03 J2 - 12節@石川西部 金沢 1-1 福岡
2019/04/28 J2 - 11節@栃木G 栃木 1-1 岐阜	2019/04/28 J2 - 11節@みらスタ 山口 0-2 金沢
2019/04/21 J2 - 10節@長良川 岐阜 0-1 水戸崎	2019/04/21 J2 - 10節@石川西部 金沢 0-0 柏

●前節で連敗を4で止めたが、8試合未勝利のままのFC岐阜。元号が令和となつての初戦、GW10連休でのJリーグ最後の試合となった5/5(日)第12節・ホーム琉球戦は、序盤から琉球に試合の流れを握られ、早々に失点を許してしまう。その後も琉球の鋭い攻撃に対して岐阜は後手に回り、何度も決定機を作られるが、運も味方して前半は1失点で折り返す。しかし後半は次々と投入した選手交代が功を奏して、試合の流れを取り返す岐阜。そして#11 前田遼一の移籍後初ゴールで同点に追いついて勢いに乗ると、#28 永島悠史の今季初ゴールで逆転に成功。最後は琉球の猛攻を防ぎきって2-1で試合終了。8試合ぶりの勝利、そして今季初の逆転勝利で令和の初ゲームを飾ることができた。

前日の試合で最下位・鹿児島が勝利したため、琉球戦の開始前には暫定順位が最下位だったFC岐阜。しかし、琉球戦で8試合ぶりの勝利そして勝ち点3を手に入れたおかげで、順位は19位に上昇し、J3降格圏内を脱出した。しかし、当然ながら油断ができる状況ではない。最下位・栃木ですら岐阜と勝ち点差2であり、1試合の勝敗で再び最下位に転落する危険性を十分に残している。しかし一方で、例年のことながら混沌としているのが、J2の中間～下位の順位争いだ。勝ち点が密接しており、現時点では最下位から勝ち点差3に17位・愛媛まで、勝ち点差6になると10位・徳島までが入ってきてしまう。つまり、この順位で連勝できるかどうかで、FC岐阜が今後見ることのできる景色は全く変わってしまうと言っていい。しかも、今節がホーム連戦ともなれば、やはり連勝を達成してチームの勢いを本物にしたいところだ。厳しいチーム事情は続いているけれど、今節も勝利を掴み取りたい。

さて、そのホーム連戦の対戦相手はツエーゲン金沢。昨季は13位となり、柳下正明監督体制3年目の今季は、昨季よりも更に好調で現在5位、プレーオフ圏内にいるチームだ。その特徴は、堅守とスピードを活かした全員型の攻撃サッカーで、リーグトップの18得点を誇る。しかも、9人の選手が1～3点を獲っており、また、セットプレーからの得点も多い。したがって、金沢の攻撃陣に対しては、いわゆる“ゴールゲッター”を絞ることができず、岐阜の守備陣の対応には困難が想定される。要注意選手としては、それぞれ3得点を挙げている前線の#9 小松蓮、#11 杉浦恭平、#22 クルーニーの3名を挙げておきたい。また、中盤でフル出場を続ける#8 藤村慶太にも注意が必要だ。彼に金沢の前線へボールを供給させないようにすることも、岐阜の勝利には重要だ。

金沢とのJリーグでの通算対戦成績は、岐阜の2勝2分4敗・5得点9失点と残念ながら負け越している。ホーム戦での戦績も1勝3敗・1得点4失点。昨季はホーム・アウェイの2試合とも、無得点で敗れてしまった岐阜。今節は何としても金沢の守備を崩して得点を挙げて、昨季のリベンジそしてホーム連勝を果たしたい。

隣県対決、恒例となった「白山ダービー」と銘打たれた一戦。好調の上位チームを相手に、ホーム戦といえども、厳しく難しい試合になるだろう。しかし、ホームスタジアムでは勝たなくてはならない。そして、そんな試合だからこそ、僕らFC岐阜サポーターが選手たちの力になろう。僕らの拍手と声援で、最後まで勝利を信じて走り続ける選手を奮い立たせ、その背中を押して、そして最後には勝利の歓喜と万歳四唱を、このスタジアムに響き渡らせよう。

(ささたく)

投稿募集!! gidaidohri@gmail.com

【第12節】岐阜 2-1 琉球

●令和最初の試合は、今季初のホーム戦ナイター。日中はカラリと晴れたけれど夏日で25℃超え。うーむ、今年も暑い夏になるのかしら。また選手たちの消耗が心配な季節がやってくるなあ…などと思っていたら、この季節から動きが鈍い岐阜の選手たちは…(溜息)。上位の琉球が相手だから岐阜は慎重(臆病?)になっているなのか、それとも琉球の選手の方が(現時点レベルでは)暑さに慣れているのか。なかなか前を向いてプレーできない岐阜に対して前線からプレスを掛ける琉球。するとボールを奪われてショートカウンター。なんとか守備陣がゴール前を固める体制を整えようとしたんだけど、その前に空いたスペースでミドルを撃たれ、早々に失点…(溜息)。まあ、確かにワンステップでコンパクトに足を振り抜いて撃ったあのミドルは素晴らしいかった。だけど、その前のボールロストが致命的だった。その後も、防戦一方となった前半の岐阜。えーと、クロスバーとゴールポストに助けられたのが3回ほどあったかしら?(失笑)。DAZNの集計だと、前半のシュートは沖縄の9本に対して岐阜は3本。だけど琉球ゴール前でプレーしている時間が岐阜ゴール前よりも長かったそうだから、岐阜がボールを運びながらもシュートまでには至らず、一方で琉球が攻撃をシュートまで持っていったかという証しだと思う。ただ、あそこで追加点が取れないのが、7試合未勝利の琉球の現状、なのかもしれない。これではマズいと、後半直後から次々と選手を投入する岐阜。そしてこれに呼応するように琉球も選手を交替させるんだけど、この交替が結果的に上手くいった岐阜と、そうでなかった琉球の違いだったようにも思う。特に、#11前田遼一がピッチに入った時のスタジアムの盛り上がりっぷりときたら…まあ、僕もそうだったんですが(苦笑)。そして、CKのこぼれ球を再び#24 飯飯原尚平がゴール前に放り込み、そこへ相手DFの背後からミサイルのように飛び込んだ#11前田がダイビングヘッド! GK一歩も動けずボールが突き刺さるサイドネット! いやあ…知ってたけど、やっぱり凄いわ。これぞ日本代表ストライカー、これぞ千両役者。これで一気に勢いづく岐阜の選手たちとスタジアム、対する琉球は#11前田を警戒してラインが下がる。そして押し寄せムードの中、#11前田がつぶれた隙を、これも途中出場の#28永島悠史がすり抜けてタイミング良く左足で撃ち抜いたボールは、GKの手の先をすり抜けて…逆転ゴール! 歓喜に沸くスタジアム。その後の琉球の決定機には心臓が止まるかと思った(苦笑)けれど、必死に守る岐阜の選手たち。長く感じたアディショナルタイムの後、試合終了の笛と共に響き渡る“アイーダ”。久しぶりの『長良川劇場』。ホントに勝利って素晴らしい! でも、だけど、とも思うのだ。この勝利は、間違いなく後半に投入された3選手だと僕は思う。では、何故その3選手がスタメンではないのか? もちろん、後半に攻撃のギアを上げるために必要という考え方もあるのは分かる。そして、逆転勝利の味は格別だ(笑)。しかし、サッカーは基本的に先制点を獲った方が有利なスポーツだし、この試合だって前半に琉球に追加点を許してしまっていたら、負けていただろう。そういう意味では、運に助けられた勝利だったと、気持ちを引き締めたいし、今後のためにはチーム全体の底上げが必要だ。今節は安定した勝利のために、まずは先制点を!(ささたく)

●え? まだだよな? まだ、終わってないよな? と思ったけど、スタジアム内では勝利の後の音楽まで流れ始めるし、こっちが間違ってるのかと思ったよ(苦笑)。主審の笛も紛らわしかったけど、手がまっすぐ上がってるんで間接FKだなんて。聞くところによると、実況の方も早とちりしてた模様。でも、気持ちはわかる。それほどまでに、応援してる誰もが待ち望んでいた勝利だったということだ。二ヶ月ぶりの勝利ですか。シビれるワケだ。そして、一夜明けても余韻に浸れるのは人生の喜びだとは思いませんか? 常勝クラブのサポさん達には

味わえない興奮と感動だなぁ。安堵、でもあるけどね(苦笑)。ただし、言いたいコトはある。前半は酷かった。試合後の祝勝会での最初の一杯を北側ゴールのバー様とポストくんには捧げなきゃいけない試合だったよ。3回だよな? 3回。もし、一本でも決められていたら…と思うとゾツとする。それと、勝ち越し後の大ピンチを防いだ守備陣は称賛しなきゃだ。特に、ヤンと会津? かな? ギリギリでゴールインを防いだのは、今節のベスト・セーブ確定モンだ。(そう思ってたなら、DAZNの『ベスト・セーブ』に選出されてた! 素晴らしい!!)そして、ケガ明けの前田神(勝手に神認定。あんな空飛ぶシュートはヒトの成せる業ではない)とオーバートレーニング症候群から復活したユージが、交替出場でゴールを決めた。ここまで耐え忍んでいた二人の活躍は『待ってました!』には違いない。それと、前田神が入る時の雰囲気と言ったら……。アノ逆転劇は、スタジアムも一体となって作り上げた脚本と言えるかもしれない。それは素晴らしいことだよな。ただ、ね。あの交替を采配ズバリ! とか、的中! って言われるとなぁ。負けてる状況で、サブの攻撃的な選手を入れたに過ぎない。まあ、実況的にも、見出し的にもそうなるのは致し方なしと思うけど。でも、3つの交替枠を使った以降の展開を見ると、現時点での理想のスタメンは途中交替以降のメンバーなんじゃないかと。もちろん、前田神が20分前後しか動けないという状況で悩んだ末のスタメンなんだろうが、それならそれでゲームプランはあるハズ。前半であそこまで蹂躪されるというのは、実に不甲斐ない。とはいえ、前半の琉球は素晴らしいかった。チェックに行っても巧みにウチの選手とボールの間に身体を入れて、逆にウチの選手の動きを封じ、フリーな味方とスペースを見つけてボールを繋いでいた。また、横パスだけでなく、効果的な楔のパスもたくさんあったし、何というか『大木サッカー』の完成形ってコレじゃないの? と思っちゃうくらいの出来だった。監督も選手も入れ替わったJ2初年度のチームがここまで出来るのはスゴイよね。ウチの選手も感じるところはあったんじゃないかな? やるのは選手だからね。特に大地やトーマはいろいろ思うところがあつただろう。チームの勝利は嬉しいだろうけど、まず、自分に足りないところ、前田神やユージャから見習うべきところを理解し、彼らを越えていくような進化を見せてほしい。あと、三島。決勝ゴールに繋がるパスカットからの前田神へのパス。地味で目立たないけど、時折ああいうコトするから外せないんだ(苦笑)。願わくば、この試合の上里を見習ってくれ。ああいうミドルは絶対必要。ソレは賢星にも言えること。賢星は昨季の京都戦でスゴイの決めてるんだから。もっと、もっと、貪欲にゴールを狙ってほしい。「オレが決める!」ぐらいの気持ちを持ってね。

とにかく、まだまだ厳しい試合は続く。今節の金沢もプレーオフ圏内順位に位置するキツイ相手。けれども、負けるワケにはいかない。ココはウチのホームだからね。今日は琉球戦の後半のような雰囲気を最初っから作ってこう。そして、また、みんなで万歳四唱で締めくくしましょう!(ぐん)

●逆転勝ちにはスッキリしたけど、スッキリした逆転勝ちではなかった。前半、攻撃では琉球の4バック2ラインに何も出来ず、守備では高く上がったサイドバックの裏を執拗に狙われて。バーやポストが弾いてくれた3本のうち2本が入っていたら、試合は壊れたまま終わっていただろう。山岸の投入で流れは変わった。攻撃に推進力が生まれて琉球の守備が綻び始め、そして前田遼一の登場。「これが」1リーグ戦で154ゴールを叩き出した男の『仕事』かと唸らされた。クロスボールのヒットポイントに入りに行く上手さ。決勝点のお膳立てポストプレーも見事。参りました。

でも、やっぱり歓喜の舞は踊れない。琉球は前半のうちに岐阜を殺すことが出来た。生き延びたのは、岐阜ががんばったのではなく、琉球の最後の手際が悪かったから。前半、岐阜があれだけ「出来なかった」のは何故か。これに対応していかないと、殺せる相手には確実に殺されるだろう。(吉田铸造)